

2018年度リスクマネジメント研修会報告

総務部会（大塚陽一）

研修内容：保全協会では重大事故として、熱中症・落枝・雷・スズメバチ・マダニを取り上げている。
本年度はこれの中で研修テーマとしてこれまで取り上げていないマダニ等を取り上げた。
テーマ名は「野外活動につきまとうマダニ等による人獣共通感染症の予防」について

- ① 人獣共通感染症とは
- ② マダニ・ツツガムシとは
- ③ 予防策は
- ④ 感染した場合の処置は
- ⑤ その他

講師：依田 知子氏（元地方独立行政法人 大阪健康安全基礎研究所、感染症細菌課 主任研究員）
（ナチュラリスト講座で講師をされている）

実施日時：2019年3月24日（日）14時～17時

実施場所：淀川区民センター（阪急電車十三駅より徒歩約10分）

参加費：500円

参加者：会員および会員外など21名。

主催者挨拶：研修会冒頭に金谷副会長より、至近時の保全協会の動き、2019年度より事務局を専従職員からボランティア体制に移行することなどについて報告されるとともに協力要請された。

- <所感>・今回初めて行ったのは保全協会財政を考慮し参加費を徴収した（500円）ことと、会員外にも参加を呼びかけた。結果は4名の参加があった。会員外への参加呼びかけは次回以降も継続したい。
- ・質問数件、終了後も講師に直接聞く人が数名、活発であった。
次ページに質問に対する講師からの補足があります。
 - ・講師の説明も分かり易く、参加者にマダニに被災されたことをヒアリング（状況・対応など）されていたことも現実感があり良かった。
 - ・

以上

講師の依田知子氏

受講風景



1. ダニの冬の過ごし方——ダニは、冬を越せる

ダニは種類によっては、成ダニになるまで1-2年かかるそうです。
ですので、幼ダニ、若ダニ、成ダニであっても冬は越せるそうです。
卵で越冬もあります。
ツツガムシの幼虫もちろん、冬を越すことが可能だそうです（その場合は土の中）

2. 吸血コウモリについて——皮膚を噛み、舌を傷口に入れて高速で出し入れし、血液を舐める。

吸血するコウモリは、「ナミチスイコウモリ」という名前で中南米に分布しているそうです。
鋭い歯で動物の血管を探り、皮膚を噛み、傷口に舌を高速に出し入れして血液を舐めて摂取するようです。
コウモリに吸血されるという表現は、血を吸うということですが、舌で舐めるが正しいようです。
体が小さいコウモリですので、噛まれても気がつかない（家畜の場合特に）ですが、噛まれるというのは正しいようです。

3. ツツガムシは体内に針のような器を残すか？——ステージによっては、残す可能性あり。

ステージによって（組織液を飲む時に管のようなものを形成するらしく）、顕微鏡下でピンセット取り上げようとしても、なかなか取れないようです。また、私の理解が不足していましたが、ヒトに付着してもすぐに吸着せず、移動しながら、組織液を吸いやすい場所に移動するそうです。移動ちゅうであれば、簡単に洗い流せますが、一旦吸着するとなかなか取れないようです。
ネット検索で、ツツガムシ、秋田で調べると、かなり詳しいことが書いてあります。
また、講演で、アカツツガムシは絶滅したらしい？とお話しましたが、限局的に今もいるようです。
大変、失礼いたしました。

以上、分かりにくい回答になりましたが、どうぞ宜しくお願いいたします。
回答は、インターネットで調べ、大阪健康安全基盤研究所の弓指先生に確認したものです。